

洋切り花における総合的な防除の導入支援

1 対象

洋切花生産者1戸

2 背景

対象農家では、化学農薬や捕虫粘着テープの設置等の総合的な防除を試験的に取り入れている。しかし、各手法の特性を活かした組み合わせが十分に活用されず、難防除害虫の大量発生による品質低下を招き、出荷本数ロスの軽減が課題となっている。

今年度は、効果的な害虫防除手法を組み合わせた総合的な防除の導入を目指し、出荷ロス軽減を図る。

3 活動の内容

(1) 農薬散布における効果的な防除対策支援

対象農家から使用している農薬を聞き取り、その農薬の作用機構コードと農薬名を列記した、独自の農薬記録簿の記入表を作成し、対象者に散布ごとに記入してもらうよう指導した。定期的に農薬記録簿を確認し、作用機構コードが同じ薬剤の散布間隔を広げるよう助言し、ローテーション散布の実施と意識づけを行った。

(2) 効果的な捕虫粘着テープの設置支援

対象農家から昨年度の設置方法を聞き取りし、効果的な設置方法の改善案の検討を行った。改善点は、設置数の倍増と、設置位置の変更を行った。

(3) 総合的な防除対策の確認、評価

愛知県総合的病虫害・雑草管理（IPM）実践指標を参考にした「総合的な防除対策一覧表（図）」を作成し、それを基に対象農家へ総合的な防除対策について確認・助言を行った。12月に、対象農家の総合的な防除対策の効果測定と出荷状況を聞き取りし、対象農家と一緒に取組の評価を行った。

4 活動の成果

作成した「総合的な防除対策一覧表」の対策事項15項目のうち、12項目を実施することができた（図）。また、対象者に対して、総合的な防除導入の効果等について聞き取りを行った結果、昨年度と比較して、害虫防除についての意識向上や害虫防除効果が上がったことを実感していた。また、害虫被害による出荷本数のロスは10%軽減できたことを確認した。

管理項目		対策事項	今年度の実施状況
環境の整備	栽培計画	栽培品種、施肥量、栽培時期、収穫時期、栽培方法などの計画を立てる	✓
	土づくり	たい肥、緑肥などの有機物を施用し、土づくりをする	✓
		薬剤等を利用して、土壌中の病原菌、害虫、雑草を防除する	✓
	施設環境	病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する	
	健全苗の定植	病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する	✓
防除の要否・タイミングの判断	害虫の発生状況の把握	定期的には場を見回り、病害虫の発生状況の観察や予察情報などで確認する	✓
	気象状況の把握	気象情報を把握し、適切に防除を実施する	✓
	トラップの設置	捕虫粘着テープ等によりほ場での害虫発生動態を確認する	✓
防除	薬剤の散布記録	薬剤を適正使用するため及びローテーション散布の目安にするため記録する	✓
	薬剤のローテーション防除【化】	薬剤の感受抵抗性を防止するため、同一系統の薬剤を連用を避ける	✓
	気門封鎖剤の使用【化】	害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤を使用する	✓
	生物農薬利用【生】	捕食性天敵を利用する	
	葉かき【耕】	害虫の発生防止のため、葉かきを適切に行い、欠いた葉は適切に処分する	
	抵抗性品種の導入【耕】	害虫に抵抗性のある品種を導入する	✓
	トラップの設置【物】	捕虫粘着テープ等により、害虫のまん延を防止する	✓
<small>※1 愛知県総合的病虫害・雑草管理(IPM)実践指標、福岡県IPM実践指標(施設カーベラ)を参考 ※2 【化】化学的防除、【生】生物的防除、【耕】耕種的防除、【物】物理的防除</small>			チェック数合 12

図 総合的な防除対策一覧表